

NEXT 長崎人材育成事業 林業関係団体との意見交換会

1. 日 時 令和7年5月29日（木） 10：00～11：20
2. 場 所 諫早農業高校
3. 参加者（諫早農業）副校長、教頭、環境創造科主任、担当教諭
（長崎南部森林組合）主任技師、技師、
（長崎県木材組合連合会）専務理事、
（長崎県林業協会）事務局長、事務局次長
（長崎県治山林道協会）常務理事
（長崎県森林組合連合会）常務理事
（長崎県農林部林政課）課長補佐
（長崎県県央振興局農林部林業課）専門幹、主任技師、技師
（高校教育課）係長

4. 内 容

- 今年度の環境創造科における各研修の日程と内容確認
- 演習林実習の内容についての検討
- 木材加工関係（見学・講義等）について
- NEXT 長崎人材育成の概要説明

<学校側（環境創造科）の意見>

○各研修の日程・内容について

- ・主な進路先は、林業・林産加工業関係に約3割の生徒が進学・就職している
- ・年間スケジュールにおいて、以下の関係機関に例年通り研修を依頼したい
県央振興局
中田機械店（チェーンソー研修）
林業研究グループ協議会
林業協会
- ・演習林での林道設計研修は、コンパス測量を中心とした内容での実施を希望
- ・研修で生徒の林業に対するイメージが大きく改善しており、今後も継続を強く希望

○演習林実習の内容について

- ・演習林の現状
飯盛町：植林地 約55ha、雑木林 約20ha
森林環境保全直接支援事業（H26～H30）を活用し、林道約8kmを開設
樹木が70年生に達しており、生徒による伐採は困難

○演習林の課題

- ・「伐って、使って、植える」という林業の循環を、学校単独では完結できない
- ・主伐を行う場合、伐採木は県有財産となり、収入処理等の整理が必要

○学校からの提案

- ・2年に1回、1～2ha程度の主伐を実施できないか
- ・高性能林業機械（スマート林業）研修を活用し、実践的に学ばせたい
- ・主伐後は、少花粉スギの植林につなげ、循環的な森林管理を実現したい
- ・将来的には演習林整備を進め、諫早市のモデル森林として多様な研修に活用

○木材加工・現地研修について

- ・昨年度、現場研修を実施
- ・研修経験をきっかけに、木材加工関係への就職希望が増加
- ・雲仙普賢岳（水無川）での緑化研修を実施
- ・生徒が災害の歴史や、県の林業・治山の取組を学ぶ良い機会となった
- ・最近では自治体就職希望者も増加しており、県職員の仕事理解につながっている。

○今後の課題と目標

- ・現場見学などバス手配が困難な場合、関係団体に支援をお願いできないか
- ・木材加工分野への就職者をさらに増やしたい

<関係団体、行政側の意見>

○県央振興局

- ・学校が希望する研修内容に柔軟に対応可能
- ・コンパス測量を用いた林道設計研修も問題なし
- ・教員研修（講話・高性能林業機械研修等）については、原則として経費不要

○森林組合連合会

- ・演習林の樹木が大型となり、学校カリキュラムでの伐採が困難な点は理解できる
- ・高性能林業機械を活用した主伐案は現実的で良いと考える
- ・伐採業務の発注については、林業の専門的知見が必要なため、発注方法や入札条件を慎重に検討してほしい

○林政課

- ・費用については、他事業との調整により、予算の組み換えで対応できる可能性があるため、バス1台あたりの費用が分かれば、早めに共有してほしい

○長崎県林業協会

- ・2月頃までに予算の見通しが立てば、支援可能な場合もある
- ・12月頃に、今年度予算の状況を踏まえて再度相談したい。
- ・毎年の恒常的な補助は難しいため、NEXT事業としての予算確保の検討を要望したい



意見交換の様子



集合写真